令和7年度 研究開発課題等の概要

研究体系	担当部	番号	研究課題・事業名	研究等の概要
1. 持続可能な農林水産業及び気候変動に対応した新品種・新技術の開発 優良な種子の供給と苗木生産技術の向上	育林部	1	コンテナ苗の生産に係る技術改良試験（種苗生産体制整備事業）	コンテナ苗生産者が生産現場で抱えている技術的課題を解決し、苗木生産の安定化と得苗率の向上を図るため、生産者と共同で技術の改良に取り組む。
		2	優良種苗の確保に係る採種園の適切な管理（優良種苗確保事業）	花粉の少ないスギ・ヒノキ及びマツ材線虫病に抵抗性のあるマツの優良種子を安定的に供給するため、優良系統の選抜や病害虫防除等により採種園の適切な運用を図る。
		3	採種園等における種子採取開始日の見直しに向けた調査	近年の気候変動等のために、種子の完熟時期が早まっている可能性が考えられることから、主要な林業樹種について、種子の完熟時期を明らかにする。 【中核機関：林木育種センター】
		4	ヒノキ雄花の花色変化の系統変異に関する調査	ヒノキの花粉飛散量予測技術の高度化のため、雄花の色変化とその系統変異、及び雄花の組織発達や物質生成との関係性を明らかにする。 【中核機関：森林総合研究所】
2. 省力化・低コスト化のための技術の開発 造林・育林の低コスト化に向けた技術の開発 森林病害虫防除技術の確立	森林環境部	5	特定苗木を用いた低コスト再造林のための下刈経費及び労働力の縮減に関する研究	下刈の労力と経費を削減するため、成長に優れるスギ特定母樹の自然交配種子により生産された苗木の初期成長促進のための下刈適期について明らかにする。
		6	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	森林経営管理制度の中心的役割を果たす市町村が、災害のリスクが高く管理を行う必要がある森林を抽出し、必要な施策を効率的かつ効果的に実施していくための技術を開発する。 【中核機関：森林総合研究所】
		7	適時適切なナラ枯れ被害対策に向けた調査	令和2年度から県内で被害が確認されているナラ枯れについて、原因であるカシノナガキクイムシ発生地の被害地における生息状況等を調査し、被害対策の適期を明らかにする。
		8	造林地等におけるニホンジカの食害リスクに関する調査	ニホンジカの生息状況を把握し、造林地等の食害リスクを予測するため、センサーカメラの設置や造林地等の踏査等の調査を行う。
		9	マツノマダラカミキリ発生予察調査（海岸防災林機能強化事業）	マツ材線虫病によって枯れたマツ材内のマツノマダラカミキリの虫態別の虫数を調査し、幼虫の発育状況及び気象条件との相互関係から、成虫の発生期を予測する。
		10	天然素材を生かした広葉樹の播種技術開発試験	天然素材である竹筒や枝条を活用し、野生動物の食害や誤伐の影響を受けない確実性の高い広葉樹の播種技術を開発する。 【中核機関：森林総合研究所】
3. 付加価値向上に資する新品種・新技術の開発 特用林産物の栽培技術の開発	きのこ特産部	11	マツタケをはじめとした菌根性きのこの人工栽培技術の開発	マツタケについて、安定的（長期間、持続的）なシロ拡大技術を開発する。ホンセイヨウショウロについては、野外での発生に適地（特にクリ園）を解明する。
		12	きのこ菌床施設栽培（ブナシメジ・ヒラタケ）における収益性向上を目指した廃培地利用に関する研究	資材高騰への対応及び生産性向上を図るため、栽培が終了した廃培地を培地に混ぜて生産現場で活用できる適切な混合割合を明らかにする。
		13	ホンセイヨウショウロ人工栽培を目指した安定的な菌根苗作出技術の開発	付加価値の高いホンセイヨウショウロの人工栽培をめざし、菌根苗作出技術を開発する。
		14	ウルシの植栽適地及び優良系統種子由来苗木の生育特性に関する研究	ウルシ苗の安定生産や優良系統の保存に資するため、優良系統の実生コンテナ苗の生育特性を解明する。また、ウルシ苗を山林と畑地に施肥等の管理方法を変えて植栽し、植栽方法や植栽後の管理方法を明らかにする。
		15	施設栽培におけるニオウシメジ栽培技術の改良	①菌床袋を用いた、新しいニオウシメジ栽培技術を開発する。②ニオウシメジの発生時期の平準化のための、発生時期の制御法を開発する。③資材費軽減のため、きのこ発生後の廃培地を用いた栽培技術を開発する。
(2,3共通) 放射性物質対策	森林・きのこ	16	農林水産物モニタリング強化事業	特用林産物等の検体調製及び放射性物質検査を行い、蓄積したデータをもとに放射性物質の影響を把握し、安全な特用林産物を作るための基礎データとするとともに、データを整理・分析し関係機関へ情報提供する。